

(3)「瑞穂市教育の方針と重点」に対しての活動状況

学校教育事業

(1) 魅力・特色ある学校に

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
1	魅力ある学校づくり	小学校・中学校を対象に、児童・生徒及び地域・各校の伝統等の実態に応じた創意ある教育活動の展開を通じ、園児・児童・生徒にとって魅力ある学校づくりを推進し、特色ある伝統・校風を根づかせ、母校としての愛校心・愛着の心を培うことを目的とする。 補助金として各学校に90万円。年度始めに計画書を提出し、事業完了後に報告書を提出する。	・穂積小学校 かしこくて あたかくて たくましい子 豊かな心とたくましい身体を育てる学校 ・本田小学校 土と光の学習 動物や自然、様々な人々とふれあう体験活動を通じて、ふるさとを愛する心と他者や学校、地域社会のために進んで役立つとする態度を養う ・牛牧小学校 動物や人の命について、学ぶ意欲を高める「牛牧ANI MA」事業 思いやりの心とコミュニケーション能力や社会性を育てる「ひかりの活動」事業 ・生津小学校 英語学習の推進を通して、文化やものの考え方の違いを気付かせ、グローバル化に対応する能力の素地を養う 英語学習の推進を通して、積極的なコミュニケーションしようとする態度とコミュニケーションの能力の素地を養う ・南小学校 夢・志をもって体験活動を行うことを通じて、たくましく生きる力を育む ・中小学校 園土の自然・文化・人への愛情と理解を深め、豊かな心と感性を磨く教育活動 ・西小学校 キャリア教育を通して学校、家庭及び地域社会が連携し、児童の成長を支えていく ・穂積中学校 地域社会の一員として生きていく力を育む穂積中学校 ・穂積北中学校 学校・家庭・地域の連携活動 生き方を探求する教育 ・黒南中学校 地域行事や生徒会活動での体験的な活動を通して、一人一人の生徒に充実感を持たせ、豊かな心を育てる	9,068	7,862	1,206	課題 学校の教育目標の具現のためにより有効な活動となるよう、組織的・計画的に進める。 対応 学校の教育目標や児童生徒に身に付けさせたい力を育むために有効な活動になるよう、組織的・計画的に進めた。	A	・学校において、児童・生徒の実態や地域の特色を生かした教育活動が継続して取り組まれ、地域において学校の魅力ある活動として定着してきた。 ・地域人材の活用や活動の補助費として、補助金が有効利用されている。	継続	・児童生徒の状況、保護者や地域の願いから、再度自校の特色を見直し、意図性や計画性を明確にし、児童生徒、保護者、地域の誇りとなり得る内容へとさらに充実を図る。
2	市教委訪問	学校経営・管理運営の実態と教育指導の推進状況を把握し、その活性化を図ることを目的とする。 年3回（1学期、2学期、夏季休業中）園・学校を訪問する。校長等との学校経営の重点等についての懇談や全教員の授業参観を行う。また、諸帳簿の点検及び特別教室の点検をする。 1学期は各学校の教務主任が他校の訪問に同行し、自校の職員指導等に生かす。 保育所訪問も年1回1学期に実施し、9園の保育所の園児の様子や園経営を把握する。	1学期は6月～7月に実施（教育委員会事務局6人で小中学校10校とほづみ幼稚園を訪問） 夏季休業中は7月後半～8月に実施し、諸帳簿点検を行う。 2学期は10月～12月に実施し、各校の公表会・研究発表会に参加する。指導主事として研究発表会の講師として指導する学校もある。 ・1学期は、「話す力、聞く力」の定着を図る場面のある授業の公開等を、2学期は、1学期の訪問で明らかになった「よさ」や「課題」を踏まえ、授業の改善点や研究の深まりのある場面が見られる授業公開を位置付ける。 ・2学期の公表会には、保護者・地域公開を行う。	0	0	0	・校長の学校経営の進捗状況を把握し、支援すべき内容を確認する。	A	・各学校が取り組んでいる魅力ある学校づくりや研究内容についてのよさや課題が明確になった。 ・児童の話す姿勢・聞く姿勢についての指導が徹底されてきた。 ・市教委訪問に対する意気込みが、教師や子どもの姿から感じられた。 ・諸帳簿は概ねどの書類もきちんと整備されていた。	継続	・校長のさらなるリーダーシップと組織マネジメントによる確実な歩みを求めたい。

(2) 教員に確かな教師力を

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
3	瑞穂市教育支援センター研修事業	・教職員の専門性や資質能力を高めることを目的とする。 ・経年研修や職務研修、夏季休業中に各種研修講座を実施する。	・全35講座（60日）実施 監督研修168名、夏季研修551名、教科等指導員による授業公開講座55名の計774名参加。 監督研修→参加者の満足度は93%が「役立った」「満足した」であった。 夏季研修→参加者の満足度は96%が「役立った」「満足した」であった。	108	108	0	課 題 より参加者のニーズに応えることのできる研修内容や時期等を工夫する。 対 応 前年度の反省を生かすとともに、教科等指導員の意見も採用する。	A	・監督研修では、それぞれの研修のねらいに応じた内容を設定したことで充実した研修を実施することができた。 ・夏季研修講座では、主体的に学べる内容が設定され、実践に取り入れることなどが明確になった。	継続	より参加者のニーズに応えることのできる研修内容や時期等を工夫する。 過負担にならないよう、県の研修等とのバランスも配慮する。
4	みずほの授業開発推進事業	新学習指導要領の完全実施に向けて、その主旨の徹底を図り、授業の具体を共通理解して、管内の小中学校の教科教育の向上を目的とする。 ・「みずほプラン」（新学習指導要領に対応した教科等の指導計画基準案）の作成を行う。	・（小）全教科2・3学期分を作成して製本完成 ・（中）全教科1学期分を作成	500	163	337	課 題 小学校分について、活用しながら改善に向けて意見集約する。 中学校分について、25年度からの活用に備えられるよう完成させる。	A	・中学校分を完成させ、各校に配布した。 ・昨年度完成させた小学校分とあわせて25年度からの活用に関わせた。	継続	小中学校とともに、活用しながら改善に向けて意見集約する。 活用しながら朱筆を加える。
5	瑞穂市教育実践論文事業	教育の今日的な課題を受け、教職員の指導力及び資質の向上に向けた主体的な研究実践の中で『生きる力』の育成につながる実践を進める姿をめざすことを目的とする。	・教育実践記録の審査及び表彰 ・岐阜大学教育学部同意会教育実践研究論文への出品 審査会 1月13日 15:00～17:00 1月20日 14:00～16:00	21	0	21	課 題 やや応募者の偏りがある。多くの教職員が、それぞれの立場で実践をまとめることを通して、教育実践を高める機会にするために意識付けをする。 対 応 研修などの場で、実践にまとめるよう働きかけをした。ニーズに応じて実践をまとめる相談をした。	B	・若手教員を中心に46名の応募があった。 ・教科等指導員の専門性も生かして審査を行い、意見交流をとおしてさらに指導力を高めることができた。	継続	若手教員だけでなく幅広い年代からの応募を求めたい。それぞれの立場で実践をまとめることを通して、教育実践を高める機会にするために意識付けをする。
6	指導主事派遣（要請訪問）	瑞穂市教育委員会の学校教育の方針と重点の具現を一層図ることを目的とする。 各学校（園）の教育実践の充実・向上を図ることを目的とする。	・市教委指導主事及び瑞穂市教育支援センター教科等指導員対応（計25回） ※各校の主題研究に関する派遣だけでなく、生徒指導や教育相談等についても教職員の資質向上を図る現職研修も対応する。	0	0	0	課 題 瑞穂市教育支援センター教科等指導員への要請がなかった。各校の主題研究や現職研修等も踏まえ、活用について周知していく。 対 応 教科等指導員には、授業公開をお願いし、若手を中心にその授業のノウハウを伝えていただく場を設ける。	A	・市教委指導主事により各学校の要請に応じた派遣を行うことができた。	継続	要請訪問や市教委への訪問要請は多くあり、効果があった。瑞穂市教育支援センター教科等指導員については、実際の授業を提供することで、瑞穂市の教育の底上げに寄与できるものと考えている。
7	「みずほの教育」発行	各学校で今大事にして取り組んでいること等について市内園学校職員に周知することを目的とする。 ・年3回発行する	年3回発行 各学校の特色ある教育の実践、また教育委員会の取組について記事にする。 各学校の執筆者 11名 教育委員会 9名	56	46	10		A	・各学校の特色ある教育実践や市の取組について、学校職員に周知することができた。	継続	毎年継続していくことが重要な事業であると考えられている。
8	教育相談担当者会	市内の不登校児童生徒の状況を伝達し改善の方向を示すとともに、教育相談担当者の資質の向上を図ることを目的とする。	年5回（4回1・5時間、1回2時間）実施 市内の不登校児童生徒の状況、各学区区単位でスクール相談員を中心に各校の現状の交流 各学校の教育相談担当者 10名 スクール相談員 3名 市教委担当者と相談員 計 4名	0	0	0	課 題 アジサイ教室と学校との連携をさらに深める	B	・各校の教育相談体制の見直しを図ることができた。 ・スクール相談員からの情報で不登校児童生徒の実態をつかむことができ指導に生かすことができた。	継続	アジサイ教室と学校との連携をさらに深める

(3) 一人一人に支援を

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
9	教育相談事業	園・各学校における不登校児童生徒・不登校児童生徒への支援を目的とする。	適応指導教室（アジサイスクール）の運営、教育相談員による各学校訪問及び不登校・不登校児童生徒への対応、保護者との相談 適応児童生徒 9名（この内の数々が 月～月に適宜） 保護者との定例会 月2回 延べ70人参加	7,539	7,539	0		A	・午前中は学習の時間を位置付けたことで基礎・基本の学習内容を補完することができた。 ・教育支援センターの設立に伴い、通しやすい環境で支援をすることができ、ホールで運動するなど休づくりを行うことができた。 ・ボランティアの先生にも来ていただき、様々な体験的活動ができた。	継続	学校（教育相談担当者、担任）と保護者とアジサイ相談員とのさらなる連携をはかり、児童生徒の不登校の態様に応じた適切な支援・児童が行えるようにする。 児童生徒の社会性を養い、コミュニケーション能力を高めるための学習、活動及び行事の見直し、精選を図る。

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
10	特別支援教育強化事業	障がいのある園児児童生徒への支援を目的とする。	協議会 年2回 ・特別支援教育担当者の資質向上を目指す研修内容の見直しをする。 ・幼児からの一貫した取組を記録する様式について検討する	114	87	27	課 題 卒業後も市として支援していけるよう、就労の受け皿となるような企業や施設の充実につなげていく。 対 応 企業やハローワーク担当者を講師とした就労に係る保護者・教師向けの講演会を実施し、卒業後を見据えた指導・支援の大切さを再確認した。	B	・研修内容の見直しを図り、就労に向けた具体的手立てについて実例を交えて伝え、各自の取組について改善点を見つけ出すことができた。	継続	卒業後も市として支援していけるよう、就労の受け皿となるような企業や施設の充実につなげていく。
11	就学援助事業	経済的な理由により、就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して、給食費や学校納入金など学校に必要な費用を援助することによって、ひとしく教育を受ける権利と機会を与え、義務教育を円滑に実施をすることを目的とする。	児童生徒の保護者及び保護者と住所を同じくしている親族の市町村民所得割額が非課税で、生活保護に準じる程度に経済的に困難していると教育委員会が認めた方で、母子家庭等で児童扶養手当を受給している等の条件に該当する保護者に対して、学校給食費や学校納入金等を援助する。 (平成25年3月現在) 穂積小 12 穂積中 11 本田小 6 穂積北 11 牛牧小 11 奥南中 6 生津小 12 中学校計28 南 小 2 中 小 4 西 小 5 小学校計52 うち震災により被災地から避難されてきた児童 2名	6,018	5,719	299		A	・新小1年生を対象に就学時健康診断において案内を行った。また同時期に学校から在校生・生徒の保護者に案内を行い周知を図った。	継続	
12	私立幼稚園就園補助事業	幼稚園教育の振興のため、世帯の所得状況に応じた保護者の経済的負担の軽減と、公・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正を目的とする。	(補助単価は、国の平成23年度補助限度額に基づく) 瑞穂市在住で、満3歳から5歳までの幼児を私立幼稚園に通園させている保護者で、世帯の市民所得割課税額の合計が次の場合対象となる。 ・市民税が課税されない世帯又は生活保護を受けている世帯 ・納付すべき市民税が非課税となる世帯 ・納付すべき市民税が年額34,500円以下となる世帯 ・納付すべき市民税が年額183,000円以下となる世帯 ※補助限度額は、同時就園だけでなく、小学校1年生から3年生の兄・姉を持つ場合と持たない場合等の条件により異なり、第2子の保護者負担を軽減している。 19園に402名が通園 総額 29,998,000円を補助	2,998	28,840	▲25,842	課 題 瑞穂市は、一年遅れの国の補助単価で実施している。近隣の市町の状況は、ほとんどが国の最新の補助単価で実施しているため、瑞穂市も見直しをしなければならない。また包括外部監査にて職員が当補助金に関する事務手続に要する時間は合計で3週間程度と非常に多く、こうした事務負担も考慮に入れつつ、補助金の額や継続については定期的に検討していく必要がある。と考えるが、今後のほづみ幼稚園の動向も見ながら考える必要があると指摘を受けている。 瑞穂市の市立幼稚園(ほづみ幼稚園)が、平成23年度から3年保育を実施したが、3歳児においては、定員を超える応募があった。 対 応 近隣の市町が実施しており、保護者負担の軽減の点から継続する必要がある。	B	補助対象園児数 平成17年度 250人 平成18年度 278人 平成19年度 311人 平成20年度 323人 平成21年度 341人 平成22年度 378人 平成23年度 345人 平成24年度 322人 適園園児数 平成17年度 426人 平成18年度 440人 平成19年度 456人 平成20年度 478人 平成21年度 504人 平成22年度 510人 平成23年度 462人 平成24年度 402人 平成23年度はほづみ幼稚園の3年保育開始に伴い減少となった。	継続	瑞穂市は、一年遅れの国の補助単価で実施している。近隣の市町の状況は、ほとんどが国の最新の補助単価で実施している。今後、国の制度改正が実施される可能性があるため単価を見直す必要がある。
13	外国語を母国語とする児童生徒への日本語指導員派遣事業	・中国語・ポルトガル語・タガログ語を母国語とする児童生徒に対して、学校生活がスムーズにできるように日本語指導を行うことを目的とする。 ・日常会話の指導及び習得 ・学校用会話の指導及び習得 ・学習内容の復習及び習得 ・保護者への連絡協賛	勤務 ①中国語対応 指導員1名 穂積小・本田小・穂積中 ②ポルトガル語対応 指導員1名 本田小・牛牧小・西小 ③タガログ語対応 指導員1名 穂積小・牛牧小・穂積中	1,760	1,696	64	課 題 個の実態に応じて、支援内容や方法を工夫して、学習や生活の質を向上させる。 今後とも外国語を母国語とする児童生徒の転入が予想されるので、支援員の増員を望む。 対 応 児童生徒の実態に応じて適切な支援ができるよう、柔軟な指導員の配置を行った。	B	○日本語の日常会話やひらがな・漢字の指導等、個に応じた指導・支援がなされ、該当児童生徒の学校生活の安定につながった。 ○該当児童生徒が、週1回ではあるが、学校で安心して母国語で語れる時間を設けることで、該当児童生徒の安定した学校生活の一助となっている。中学校では、進路説明や集金等の保護者への説明等にも成果をあげている。	継続	個の実態に応じて、支援内容や方法等を工夫して、学習や生活の質を向上させる。今後とも外国語を母国語とする児童生徒の転入が予想されるので、支援員の増員を望む。
14	高等学校等就学奨励一時金交付事業	高等学校等に就学しようとする者のうち、経済的な理由により就学すること支援のある者の保護者に対し交付することにより、就学に要する経済的負担の軽減を図り、有為な人材の育成に資することを目的とする。	平成24年度 中学校卒業者5名	600	250	350		A	市内中学校在籍者については学校より案内を行った。市内中学校在籍者でない者については広報みずほに掲載をし周知を図った。	継続	

(4) 子どもに感動体験を

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
15	子ども議会	瑞穂市議会と瑞穂市行政の役割や仕組みなどについて体験を通して理解し、その目的や趣旨、方法を自分たちの学校での自治的な活動に生かし、よりよい学校づくりが推進されることを目的とする。 自分たちの住む瑞穂市の将来に抱く夢や現在の課題について、討議や意見交換をし、住みよいまちづくりに参画しようとする心情を育てることを目的とする。	回数：4回 内容：小中学校の子ども議員・執行部による子ども議会の開催。 趣旨・日程説明等 2時間 各校担当者10名参加 議員委嘱、役割分担説明等 2時間 各校担当者10名 議会事務局員、教育長 リハールサル 2時間 各小学校2～3名の児童、各中学校3名の生徒 計25名 各学校担当者10名 学校教育課長 当日 2、5時間 市長、市各部長、議会議長 教育長、学校教育課5名	15	0	15	課 題 幅広い視野をもって一般質問を考えることができるような方法を工夫する。また、子ども議会の決議事項を各学校で推進するよう働きかける。 対 応 市役所の各課の仕事や、それぞれの課に対する質問を各学校で提出してもらおう。また、一般質問や決議案については、各学校にて報告会などを位置づけ、児童生徒に周知するよう打ち合わせをする。	B	・議会の仕組みを理解したり、ふるさと瑞穂を見つめたりするよい機会となっている。また、児童生徒にとって本物の議場で傍聴者もいる中で自分の考えを述べることができる有意義な経験であった。 ・日程について調整し、「一般質問」を作成する期日を早め、小学校の児童会で年度当初に話題となるよう配慮した。また、中学生の「審判」を作成する期間に余裕を持たせた。	継続	幅広い視野と、子どもらしい身近な問題意識をもとに、一般質問を考えさせたい。
16	科学作品・社会科作品募集事業	科学作品 児童生徒の自主的な研究活動を奨励し、その結果を交流することで理科教育の振興を図ることを目的とする。 ※県児童生徒科学作品展中央展予選を兼ねる 社会科作品 児童生徒が自ら課題を設けて、地理・歴史・公民問題を主体的に追究する学習を支援し、社会的なものの見方や考え方を培い、問題を解決していく力の育成を目的とする。 ※県社会科課題追究学習作品展予選を兼ねる。	・要項及び作業計画書の作成 ・審査会運営事務（審査会の流れ・審査基準・審査用紙等の作成） ・審査結果の取りまとめ及び県作品展への出品事務（出品一覧作成・搬入・搬出） ・展示会の運営				課 題 審査員の審査基準の徹底をさらに図る必要がある。昨年度より、取組の指導にも役立てていたように事前に審査基準を送付している。この活用及び職員への周知についても依頼していく。 また、最優秀作品の選出にあたっては、中学校の先生も含めた全員で確認するなどとする。 対 応 審査用紙に、細かな評価項目と評価基準を載せ、それに基づいて評価してもらおう。また、県出品作品は2段階審査を行い、より多くの先生で審査する。	B	・審査委員長さんを中心に、滞りなく審査事務を行っていただけた。 ・一般参加者の要望に応え、展示会を2日にしたことでも、多くの方に参加していただけた。（701名） 【参考】平成22年度・・・642名（約60名増）	継続	今年度、理科の細かな評価項目、評価基準を明らかにして審査を行い、成果があった。来年度は、社会科においても評価項目の細分化、評価基準の設定について考えていきたい。

(5) 市民の理解と協力を

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
17	まちの学校	市内園・学校の創意ある学校運営に関する情報及び、就学区域弾力化に伴う学校選択の資料提供を行うことを目的とする。	年1回（9月発行） 【園・学校】園児児童生徒数、教職員数、学級数、創意ある学校の取り組み 【教育委員会】教育委員会の取り組み、就学区域の弾力化 各園・学校（主に教頭） 11名 教育委員会学校教育課、教育総務課	255	249	6		A	・各校の誇ることでできる教育活動を紹介することで、学校選択の資料とすることができた。	継続	
18	就学区域の弾力的運用制度 指定学校変更	保護者・子どもが学校を選択することで意欲的な学校生活が期待できるようにすること。同時に公平性・平等性要求に応えることを目的とする。 ・就学時には就学区域の弾力的運用制度を、既就学者は指定学校変更の制度を利用して指定就学校を変更することができる	就学区域の弾力的運用制度を利用して入学時に指定学校変更する者は 小学校 72名 中学校 31名 この内新規利用者 小学校 16名 中学校 13名 就学指定学校変更を利用して指定学校を変更して通学している者 小学校 18名 中学校 6名	0	0	0		A	・通学の利便性を理由とした利用者が多く子どもの安心・安全な通学が確保されている。 小学校で2、2%、中学校で1、9%の児童生徒が弾力化の制度を利用している。 また、指定学校変更については、小学校では0、5%、中学校では0、4%の利用であった。	廃止	弾力的運用制度で入学した児童生徒を今後も継続して見守る。

(6) その他

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
19	小学校社会科副読本編集委員会	小学校3・4年生の社会的な見方や考え方を培うため、身近な地域の社会的事象を取り上げた教材を編集・作成し、各小学校で副読本として活用することを目的とする。	回数：4回 内容：小学校社会科副読本の編集委員会の開催、副読本原稿の編集及び製本	650	433	217		A	・新しく副読本の内容を見直し、取材等を通じて編集・製本することができた。 ・平成24年度は、新しい冊子を活用した実践交流会を実施する。	継続	
20	行事調整会議	管内の園・小中学校の年間行事の調整を図ることを目的とする。	・5月20日、8月26日、12月20日、3月16日 学期ごとの行事調整及び翌年のカレンダー作成	0	0	0		A	・実務的な調整を行っている教務主任の参加により、指導主事派遣や各種研究会等、即時相談しながら調整・確認できている。 ・翌年のカレンダー作成時には、保育所の代表にも参加いただき、鳥瞰的な行事調整が行えた。	継続	年3回の行事調整会議をもち、修正しながら運用している。就学時検診など、夏以降に決定する行事が入りにくい実態がある。
21	生徒指導関連	教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、児童生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるようにすることを目的とする。 ・学校指導体制の確立、生徒指導主事の資質向上、他機関との連携等の充実を図る。	・生徒指導主事会（生徒指導主事研修会） ・突発的な事案による学校等訪問 ・主幹教諭との懇談 【定例会議】 ・生徒指導・教育相談担当者会：3回（各3時間） ・本巣市・瑞穂市・北方町小中高生徒指導連絡協議会：3回（各3時間） ・地区幼小中高生徒指導連携強化委員会：3回（各3.5時間） ・本巣市・瑞穂市・北方町中学校生徒指導主事会：2回（2時間） ・北方署管内立ち入り調査1回（3時間）	0	0	0		A	・「主幹教諭」との連携を密にとることにより、各校の生徒指導状況を的確かつ詳細に把握できるようになった。 ・虐待関連のケース会の開催など、関連諸機関との連携もスムーズに行われるようになった。 ・学校の生徒指導体制を強化する意味で、生徒指導主事研修会を充実させた。	継続	・生徒指導主事会などで、各学校の生徒指導上問題のある児童生徒の交流を行い、その対応などを研修することで、指導能力を高めている。 ・児童相談所や市の福祉生活課などと連携を図りながら、虐待児童生徒、不登校児童生徒への指導を行えている。 ・個々のケースでは、対応の難しい事案があり、弁護士などを含めた、関係機関との連携を拡大していきたい。
22	進路指導関連	児童生徒が自らの生き方を考え主体的に進路選択できるようにすることを目的とする。 ・各校の計画的、組織的な進路指導について指導・助言を行う。	・H23県立高等学校及び特別支援学校入学者選抜要項説明会：1回（2人） ・調査書等記載点検 回数：3中学校（計3回） 点検人数：9人（3人×3）	0	0	0	課 題 外国籍生徒の受検等、手続き上の確認の徹底を図る必要がある。 対 応 様式の変更などを確実に周知させ、厳密な点検を行う。	B	・調査書等記載に係わる事務作業において、市教委が学校に出向き、夏季休業中に点検（指導要録等）を行い、年度末に調査書の点検を行った。	継続	外国籍生徒の受検等、手続き上の確認の徹底を行う。
23	指導主事研修会	瑞穂市教育委員会の学校教育の方針と重点の具現が各校（園）で一層図られるよう、教育実践の充実・向上及び教職員の資質向上について、研修会等で指導・助言する資質や能力を身につけることを目的とする。	・参加者人数：3人 ・教科・領域等の県主催の指導主事研修会に参加。指導主事としての資質向上を図る。	0	0	0		A	・「学校や市町で研修を充実させる」という県の研修の方針を受け、指導主事の研修会に市教委指導主事3名が参加した。 ・「国語」「理科」「特別支援」「幼稚園教育」「道徳」「生徒指導」の研修に参加した。（計17日）	継続	主事会で学んだ内容を、瑞穂市主催の研修会等で伝達や研修の機会を多くもつ
24	幼保小の連携協議	幼稚園、保育所から小学校への滑らかな接続に取り組むことで、園児が安心して小学校へ入学できるようにするとともに、市として発達や学びでの連続性に即した一貫した教育指導を推進していく。	幼児教育の在り方検討委員会、市幼保小連携推進会議、各小学校区幼保小連携協議会を行い、以下のことに取り組む。 (1) 幼保小の連携 (2) 幼児教育の充実 (3) 特別支援教育の体制整備 (4) 保護者支援・子育て支援	692	692	0	課 題 作成したカリキュラム等を実践し、工夫・改善していく。 各小学校区幼保小連携協議会の主体的な取組を進める。 対 応 カリキュラムを実践し、改善案を作成した。各小学校区の実態に合わせた連携を進めた。	A	・各小学校区幼保小連携協議会を中心に、幼保小の交流が行われ、教員・保育士の相互理解が進み、お互いが積極的に取り組むようになった。 ・市幼保小連携推進会議で検討を重ね、幼児期終わりのカリキュラム・スタートカリキュラムを作成した。 ・連携の成果等をまとめた冊子を作成して各幼保小に配布し、25年度の実践につなげる。	継続	作成したカリキュラム等を実践し、工夫・改善していく。 各小学校区幼保小連携協議会の主体的な取組を進める。 安定した取組となるようにする。

生涯学習事業

(1) 誰もが助け合う地域コミュニティ

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
25	自治会活動、校区活動を基盤とする地域コミュニティ活動の推進	地域における、スポーツ、文化、ボランティア活動等の、自治会を核とした地域コミュニティを通して、住民相互の円滑な交流を深める。穂積小学校区わくわく活動委員会 本田校区いきいき活動委員会 牛牧友愛スポーツ協議会 生津小学校区ふれあい活動委員会 巢南中学校区活動委員会の推進、支援 ※各校区の運動会、夏祭り、クリーン活動等	組織や事業内容の見直し、実際の活動サポートを通して校区活動が自主運営できるよう働きかけた。	14,550	14,143	407	課題 ・自主運営を推進するための社会教育推進員等の校区リーダーの育成 対応 ・進捗状況に応じて、課題を明らかにした支援	B	5校区のうち、4校区では事務局員が確保でき、実情に応じた自主運営化を促進している。教育委員会担当者の関与は必要である。	継続	・自主運営を推進するための社会教育推進員等の校区リーダーや実務者の育成

(2) 青少年の健全育成

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
26	青少年育成推進	市民会議を統括組織とし、地域で青少年育成推進員、社会教育推進員等が中心になった活動を推進する。	・青少年育成市民会議 関係会議年12回開催 6月17日（日）青少年育成市民会議 ・少年の主張大会 625名参加 3月17日（日）青少年育成市民会議 ・市民の集い「みずほ2012」248名参加	4,866	4,592	274		A	・市民会議等への積極的な参加が得られるようになった。 ・三部会において関係機関・団体それぞれの立場から青少年の健全育成のための意見が出され、活動に反映できた。 ・市民ラジオ体操の日を設定して、市民の理解が広がった。	継続	
27	公民館講座	講座を通して豊かな心を養い、充実した生活へとつなげる。同じ関心をもつ市民同士の交流を促進する場とする。	手作り絵本（6月～3月10回19名参加）。彩生（再生）講座（6月～3月10回15名参加）。吹きガラス教室初級（10月～2月3名参加）。 デジカメ写真講座（9月～10月8回4名参加）。茶道講座（前期6月～10月20名参加、後期11月～3月17名参加）。	5,917	4,345	1,572	課題 市民のニーズにあった更なる講座内容の充実に努める。また、市民の自発的な学習を促進する講座体系にする。 対応 市民参画型の市民自主講座の開設を計画した。	B	・市民のニーズにあうように前年度9月開講の託児付き茶道講座を前期後期行うことで充実を図った。 ・H25年の市民自主講座開講に向け、講座の選定等を行った。	改善	市民自主講座に関しては講師・受講生を広く募集しニーズにあった講座を充実させていく。
28	瑞穂総合クラブ	・様々な講座の体験活動を通して豊かな感性と知的好奇心を育む。 ・学校、家庭、地域の連携を図り、地域ぐるみの教育を推進することを通して、地域の教育力の活性化を図る。 ・小中学生を主な対象とした文化、スポーツ講座 ・豊富な知識と経験を有した地域先生の活用と新規地域先生の募集	48の講座（スポーツ 15 文化 34）を開設 指導者183名 講座登録者1,327名	3,823	3,271	552	課題 児童生徒、保護者のニーズにあった更なる講座内容の充実に努める。 対応 新規講座、地域先生の募集を継続的にやっている。	A	児童生徒、保護者のニーズにあった講座内容の充実を図るために、新規講座・地域先生の更なる募集をし、市内の小・中学生のいる家庭に広く広報した。	継続	児童生徒、保護者のニーズにあった更なる講座内容の充実に努める。

(3) 魅力ある生涯学習

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
29	自主事業	・活気に満ちあふれた瑞穂市民を生み出すために、舞台公演による芸術文化の鑑賞を通して市民文化活動の活性化を図る。 ・親子劇場、文化講演会、ネオクラシックコンサート、みずほ演劇祭	文化講演会「桑田真澄」 (11/18 900名参加) 第12回みずほ演劇祭（参加12劇団） ネオクラシックコンサート (12/9 505名参加)	2,501	2,440	61	課 題 ・市民のニーズや社会的要請に応じた公演内容の工夫 ・集客率向上につながる周知・宣伝方法の工夫 対 応 市広報やホームページを活用した広報活動	A	事業内容の精選と工夫により、各事業とも集客率向上につながった。	継続	・市民のニーズや社会的要請に応じた公演内容の工夫 ・集客率向上につながる周知・宣伝方法の工夫
30	高齢者の生涯学習の推進	・高齢者が生きがいをもって生活できる環境を整備するための学習機会の提供。 ・瑞穂大学寿学部 60歳以上の男女対象13回の教養講座 ・瑞穂大学女性学部 成人女性を対象17回の教養講座(寿学部との合同講座4回) ・瑞穂大学脳力活性学部 市内小学校で60歳以上の男女を対象 国語、算数を中心とした授業 ・高齢者人材活用事業 明正会による子ども会や学校への出前講座	寿学部 60歳以上の男女を対象に13回の教養講座(H24:665名) 女性学部 成人女性を対象に16回(うち7回は寿学部との合同)の教養講座(H24:323名) 脳力活性学部 60歳以上の男女を対象に18回、国語、算数を中心とした授業(H24:22名 生津小学校) 高齢者人材育成事業 明正会による27回の出前講座(延べ208名)	4,056	3,817	239	課 題 ・瑞穂大学(寿学部・女性学部)申込者(在籍者)に対する出席者の割合をさらに向上させる必要がある。 ・受講生のニーズや社会的要請に応じた講座内容の工夫。 対 応 現在の社会情勢を鑑みた講座内容の工夫	A	瑞穂大学(寿学部・女性学部)毎回の講座でおこなっている季節の歌は好評である。寿学部で取り入れた5分間体操も人気で、出席率向上の一助となっている。講師の先生方から、受講者の参加姿勢がよいと評価いただいている。	継続	・瑞穂大学(寿学部・女性学部)申込者(在籍者)に対する出席者の割合をさらに向上させる必要がある。 ・受講生のニーズや社会的要請に応じた講座内容の工夫。
31	図書館ボランティア活動の推進	読み聞かせボランティアの養成、派遣、ボランティアを活用した図書館活動	図書館「おはなしの会」読み聞かせボランティア、市内小学校(1校)へのボランティア派遣(6日間)、防災コミュニティーセンター(2ヶ所)へのボランティア派遣(合計8日間)、図書館ボランティアとの共同活動「大きな絵本を読む会」のボランティアによる読み聞かせ、ボランティア養成講座等	102	101	1	課 題 ・館内だけでなく、学校等へのボランティア派遣要請が増えつつあり、人材育成が必要 ・平成22年度まで実施していた障がい者向けサービスの充実と需用の把握および利用者向け案内 対 応 ・障がい者向けのサービスは、問い合わせがあったときに対応できるようにした。	A	・ボランティアの日頃の活動に役立ち、ボランティアに興味がある人、新規で始めたいという方にも有意義な内容の研修を実施 ・図書館とボランティアとの意見交換会を年度末に実施し活動に対する意見や希望を伺い、次年度の活動に反映	継続	・読み聞かせボランティア団体は各学校でもつくられてきているが、その読み聞かせの方法の多様化やスキルアップのための連携を図り、読み聞かせを充実させる。
32	成人式事業の推進	新成人が、自立し、大人の社会へ仲間入りすることを自覚するための儀式である成人式を、新成人の願いを大切につくり上げることによって、ふるさと瑞穂市への思いをもたせる。	成人式実行委員会を6回開催(各中学校から実行委員を選出) 1月13日(日)成人式参加者 416名 成人式該当者 627名	1,014	725	289		A	・実行委員会による主体的な取り組みにより、企画・運営できており、厳粛な中にも、温かきがある式となっている。	継続	・成人式実行委員の選出の際に、各中学校に恩師が在籍していない場合があり、困難をきたすことがある。
33	乳幼児期からの家庭教育の充実	子どもの発達段階に応じた親の関わり方についての学習を支援する。子育てを通して家庭のネットワークを広げる。	乳幼児家庭教育学級：保健センター2ヶ所で3回ずつ開催、受講生38名、延べ70名参加、託児ボランティア27名、延べ70名託児。家庭教育学級：市内で14学級開設、子育てに関する講話、親子活動、体験活動 等	1,027	984	43	課 題 乳幼児家庭教育学級については講座内容のさらなる充実をめざす。各家庭教育学級については自主性を尊重しながら、各学級がより活発に活動できるよう助言・支援する。 対 応 読書活動推進と関連させ、子どもへの読み聞かせに関する講座を設定した。	A	乳幼児家庭教育学級の各回においてアンケートをとり、講座へと意見を反映させている。家庭教育学級については事業報告を提出してもらい、交流会の場において各学級の年間活動を発表してもらっている。また、岐阜教育事務所とともに市内家庭教育学級の特徴的な活動を見学した。	継続	乳幼児家庭教育学級については市民のニーズにあわせ、さらなる事業の充実を図る。各家庭教育学級については研修会等の機会を通して、各学級間の交流を支援する。
34	市民文化の育成	・市民による文化・芸術活動を支援し、発表の場や鑑賞の機会の充実に努める。 ・演劇祭 ・ネオクラシックコンサート	・文化協会、演劇祭実行委員会等の文化・芸術活動団体に対する支援 ・施設の修繕・整備	0	0	0	課 題 市民参加型事業の推進と一般参加者の拡大 対 応 市広報やホームページを活用した広報活動	A	・クラシックコンサート、演劇祭などの開催を通して市民参画・参加型の活動を推進することができている。	継続	市民参加型事業の推進と一般参加者の拡大

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
35	文化協会の育成 (自主運営)	・文化関係団体との連携を図る中で、文化協会事業の支援を積極的に進め、芸術や文化の振興を図る。美術展、文化フェスタ 文化協会祭等	・事業費に対する補助	4,850	4,841	9	課 題 新規会員の加入促進獲得 自主財源の確保 対 応 文化活動の公開による市民への活動の周知。また、それに伴い賛助会員の確保及び協力をお願いを行った。	A	自主運営ができています。	継続	補助金等に関する指針に基づいた協会の事業運営及び、更なる自主財源の確保。

(4) 生涯スポーツ

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
36	生涯スポーツの振興	・生涯にわたり心身ともに活気に満ちた生活を営むため、スポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会と場の提供 ・ファミリーハイキング ・体育教室の開設 リトミック親子体操 ・みずほ体操、ゲートゴルフの普及 ・サーキットトレーニング講習会	ファミリーハイキング（5/26常滑市 84名参加）。 ゲートゴルフ大会（12/279名） リトミック親子体操教室5回コース年3回（60組参加）。	815	752	63	課 題 ・体育協会、スポーツ推進委員並びに教育委員会との連携を密にした市民にスポーツの機会と場を提供できるプログラムの工夫 ・各種スポーツ団体における指導者の育成（体育協会開催） 対 応 予定されていた行事・講座を計画的に開催した。	A	各事業とも多くの参加者を得ることができ、大変好評であった。	継続	・体育協会、スポーツ推進委員並びに教育委員会との連携を密にした市民にスポーツの機会と場を提供できるプログラムの工夫 ・各種スポーツ団体における指導者の育成
37	スポーツ大会の支援	・ぎふ清流国体（本大会）・ぎふ清流大会（リハーサル大会・本大会）の開催とそれに向けた準備 ・効率的な大会運営、参加者の拡大、ボランティアの活用 ・平成24年度のぎふ国体に向けて、朝日大学とストライク瑞穂との連携による選手育成 ・うすずみ浪漫ウォークの支援（本県市事業）	・ぎふ清流大会リハーサル大会（6/3） ・ぎふ清流国体本大会正式競技「ボウリング大会」（9/30～10/3）、デモスポ「ゲートボール」（10/6）、「ターゲット・バードゴルフ」（10/7） ・ぎふ清流大会「ボウリング大会」（10/13～10/14） ・国体・大会開催啓発事業（100日前イベント、55日前イベント、炬火リレー） ・瑞穂市実行委員会開催（第4・5回） ・朝日大学ボウリングチーム ストライク瑞穂	21,101	20,171	930	課 題 ・国体リハーサル大会の実施による本大会に向けた準備計画や課題の明確化 対 応 ぎふ清流国体の本大会、ぎふ清流大会（リハーサル大会・本大会）の開催へ向けた準備等を瑞穂市実行委員会を中心に取り組み、成功のうちに終了した。	A	各種団体との連携・協力により大会を成功に導くことができた。	廃止	・国体開催を記念したボウリング大会の開催 ・国体・大会に参加した市民ボランティアの組織化 ・朝日大学ボウリングチーム、ストライク瑞穂への補助金についての翌年度よりの打ち切り
38	体育協会の育成 (自主運営)	・市民の主体的なスポーツ・レクリエーション活動を推進するために、体育協会等が自立したスポーツ・レクリエーション団体となるような積極的支援 ・体育協会事業の支援…各種スポーツ大会の後援、体育施設の管理、使用調整等	・体育協会主催事業の支援・体育協会等のニーズを把握した体育施設の整備と利用調整	13,095	13,095	0	課 題 ・体協・スポ少とも会員・指導者の減少が進んでいるため、会員の積極的な募集と指導者の育成 ・補助金の適正な執行 対 応 体協、スポ少が開催した会議や大会等に積極的に参加し、活動の支援や指導助言をした。	A	体育協会・スポ少とも概ね自主運営がなされている。	継続	・体協・スポ少とも会員・指導者の減少が進んでいるため、会員の積極的な募集と指導者の育成 ・補助金の適正な執行
39	生涯スポーツ・地域スポーツの推進、青少年スポーツの振興	・地域における身近なスポーツ環境を整備して生涯にわたって積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲、能力の育成 ・スポーツ推進委員、平成20年度設立の総合型地域スポーツクラブ（なかよしクラブすなみ）の活動支援	・スポーツ推進委員によるみずほ体操、ゲートゴルフの普及支援 ・スポーツ推進委員によるスポーツ・レクリエーション活動の出席講座推進（総合型地域スポーツクラブの広報活動支援	1,096	623	473	課 題 ・スポーツ推進委員による生涯スポーツの普及のための人員確保と資質の向上 ・総合型地域スポーツクラブの活動内容の充実及び自主財源の更なる確保 対 応 ・スポーツ推進委員は自主的な研修（3回）及び対外的な研修（4回）等の実施による資質の向上した。 ・なかよしクラブすなみは、市民のニーズに対応した講座の開設による活動内容の充実を図った。	A	・スポーツ推進委員の人数は定員（26名の定員のうち21人在籍）に達していないが、研修等を通じた資質の向上は図ることができた。 ・なかよしクラブすなみについては、年々活動内容が充実している。	継続	・スポーツ推進委員による生涯スポーツの普及のための人員確保と資質の向上 ・なかよしクラブすなみの活動内容の充実及び自主財源の更なる確保

(5) 文化の息づくまちづくり

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
40	文化財の保存	- 貴重な財産である有形・無形の文化財を保護するとともに、生涯学習等の場で広く活用する。 - 文化財保護審議会 文化財管理委託文化財巡視活動	- 文化財管理謝礼の支払い、保護審議会の視察など、指定文化財の保護、管理に関する事業を実施した。 - 図書館事業において、合併10周年事業として「治水250年の歩み～水と闘い、水を治めた瑞穂の歴史～」を開催	2,079	1,999	80	課題 - 文化財保護及び発掘について文化財保護審議会と連携を図り更なる精査の必要がある。 - 牛牧開門の指定に関しては、県の判断によることとなる。 対応 - 図書館企画展の継続的な計画と開催 - 合併10周年事業として「治水250年の歩み～水と闘い、水を治めた瑞穂の歴史～」を開催	A	文化財管理謝礼の支払い。 文化財保護審議会委員による文化財視察。 図書館を瑞穂の歴史と文化の発信基地として活用した。	拡大	- 文化財保護及び発掘について文化財保護審議会と郷土歴史指導員と連携を図り更なる精査の必要がある。 - 牛牧開門の近代遺跡の史跡指定に関しては、県の判断によることとなる。 - 郷土歴史指導員による企画展の継続的な計画と開催
41	文化の伝承	- 地域に伝承される文化や芸能の継承保存を図る - 美江寺宿場祭り事業、美江寺観世音お蚕祭り保存会、美江寺観音しょうじょばやし保存会、和宮遺跡保存会、和宮音頭保存会、宮田雅楽五音社保存会 等の支援	地域の伝統芸能や文化保護に対する支援を行った。	1,126	1,116	10	課題 - 文化財を維持していくための補助金の適正な執行 対応 - 地域の伝統芸能や文化保護に対する支援を行った。また、市天然記念物である教泉寺のマキの木保護のための補助をおこなった。	A	補助金交付	継続	文化財を維持していくための補助金の適正な執行

幼児支援事業

(1) 明るく活力に満ちた魅力ある保育所づくり

No	事業名	事業の目的・概要	24年度の実施内容	24年度の執行状況			前年度の課題と対応	評価	評価説明	方針	今後の課題
				予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円					
42	保育所保育事業	多様化する保育需要に対応できるよう、通常の保育のほか、3歳未満児保育、延長保育等の体制の充実や施設の改築、拡充を図る。	市立9保育所の定員1,495人に対し入所児童数は1,152人でした。その内、長時間保育は306人、延長保育は234人（前年度比較45人増加）でした。また、一時預かり保育延べ利用者数は1,944人（前年度比較301増加）でした。	814,875	807,934	6,941	課題 支援を要すると思われる児童に対するため及び待機児童を解消するための保育士の確保。 対応 平成24年4月から本第2保育所にて4歳までだった保育年齢を5歳までに引き上げた。	B	平成23年4月から牛牧第2保育所の定員を110人から220人に増員し、4歳までだった保育年齢を5歳までに引き上げたことにより、市立9保育所の定員も110人増加して1,495人となり、年度当初の待機児童の解消を図ることができた。	継続	延長保育の依頼に対するため、支援を要すると思われる児童に対するため及び待機児童を解消するための保育士の確保。
43	保育所地域活動事業	地域の活動は、子どもにとって、異年齢の子どもや大人、人生経験豊かな高齢者等との交流を通し、様々なことを学ぶことができ、社会性や集団性を磨くことのできる絶好の機会である。	地域交流行事を回開催、地域の行事に参加、老人施設へ訪問等を行い世代間交流を図った。	420	364	56		A	保育所の行事（ちびっこ広場、七夕、遠足、運動会、夏祭り、クリスマス会、もちつき、節分、ひな祭り等）へ地域の老人会の方の参加、地域の行事に参加、老人施設へ訪問し、世代間交流を図ることができた。	継続	

資 料

第1次総合計画【平成18年度～平成27年度】における教育委員会関連事業

第3編 基本計画

施策体系	教育委員会関連事業			
	前期基本計画【H18～H23】		後期基本計画【H24～H27】	
第1章 安全で快適なまちづくり				
第1節 治水・防災対策				
防災計画策定事業	防災計画の策定	—	防災計画策定事業	防災計画の策定 —
第2節 交通安全・防犯				
交通安全普及事業	交通安全教育の充実	—	交通安全普及事業	交通安全教育の充実 —
第3節 魅力ある市街地づくり				
西部多機能拠点整備事業	多目的広場の整備 等	—	西部多機能拠点整備事業	多目的広場の整備 等 —
第4節 交通を支える交通基盤の整備				
第5節 上下水道の整備				
第2章 心豊かな住みよいまちづくり				
第1節 住みよい環境づくり				
第2節 自然豊かな環境づくり				
第3節 誰もが助け合う地域コミュニティ				
地域コミュニティネットワーク事業	ボランティアや支えあいの地域ネットワークづくり 等	—	地域コミュニティネットワーク事業	ボランティアや支えあいの地域ネットワークづくり 等 —
地域の人材育成支援事業	地域活動リーダー育成	—	地域の人材育成支援事業	地域活動リーダー育成 —
第3章 誰もが生き生きと暮らせるまちづくり				
第1節 支え合いの社会づくり				
子育て支援事業	地域子育て支援センター活動の充実 放課後児童クラブの育成・充実 子育てハンドブックの充実 ファミリーサポートセンター事業 つどいの広場事業、子育てサロン、病後児保育	— — — — —	子育て支援事業	地域子育て支援センター活動の充実 放課後児童クラブの充実 子育てハンドブックの充実 ファミリーサポートセンター事業の充実 ホリパバサロン（子育てサロン）、病後児保育 —
幼保一元化推進事業	就学前の一貫した教育・保育制度への移行	—	幼保小連携推進事業	保育所・幼稚園から小学校への滑らかな接続をめざした連携の強化 新
保育施設等改築事業	総合施設への制度変更を顧慮した保育所等施設整備 私立保育所への支援	— —	保育施設等改築事業	保育所等施設整備 本田第1・穂積・牛牧第1保育所の保育ニーズを顧慮した改修事業 施設維持管理計画策定業務に伴う長期的使用を顧慮した改修事業 園庭芝生化事業 放課後児童クラブ施設の維持管理整備事業 私立保育所への支援 新 —
総合的な高齢者対策事業	生きがいつくり事業	—	総合的な高齢者対策事業	生きがいつくり事業 —
第2節 健やかに暮らせるまちづくり				
第4章 希望を育むまちづくり				
第1節 未来を担う人づくり				
特色ある開かれた学校づくり事業 （魅力ある学校づくり事業）	学力向上 心の教育、国際理解教育、情報教育等の特色ある教育の推進	— —	魅力ある学校づくり事業	学力向上 心の教育、国際理解教育、情報教育等の特色ある教育の推進 —
3年保育の幼稚園設置推進事業	3年保育の幼稚園設置推進 等	H23	幼保小連携推進事業	保育所・幼稚園から小学校への滑らかな接続をめざした連携の強化 —
学校施設整備事業	穂積小学校大規模改修工事 南小学校校舎増築工事	H18 H19	学校施設整備事業	牛牧小学校校舎増築工事 牛牧小学校大規模改修工事 新
	牛牧小学校校舎増築工事 穂積中学校大規模改修工事 穂積中学校校舎新築工事	— — H22		施設維持管理計画策定業務に伴う長期的使用を顧慮した改修事業 校庭芝生化事業 穂積中学校グラウンド整備事業 西小学校校舎増築工事 新 新
学校給食共同調理場新築	給食センターの新築	H19		
就学区域の弾力化推進事業	就学区域の弾力化の推進	—	就学区域の弾力化推進事業	就学区域の弾力化の推進 —
小学校における英語学習推進事業	小学校における英語学習の推進 等	H23		

施 策 体 系		教 育 委 員 会 関 連 事 業				
		前 期 基 本 計 画【H18～H23】	後 期 基 本 計 画【H24～H27】			
	教育研究所充実事業	教育研究所の充実、健全な運営	教育支援センター事業	教育支援センター研修事業、適応指導教室「アジサイスクール」等充実	—	
	学力向上アクションプラン推進事業	「確かな学力」を備えた児童・生徒の育成	—	—	—	
	青少年育成推進事業	地域活動への参加、相談・指導体制の充実、家庭・学校との連携	—	青少年育成推進事業	地域活動への参加、相談・指導体制の充実、家庭・学校との連携	—
第2節 魅力ある生涯学習						
	生涯学習推進体制整備事業	推進体制の確立	—	生涯学習推進体制整備事業	推進体制の確立	—
		各種講座の充実及び情報提供	—	—	各種講座の充実及び情報提供	—
		指導者・講師の育成	—	—	指導者・講師の育成	—
	生涯学習施設整備事業	生涯学習拠点施設整備	—	生涯学習施設整備事業	生涯学習拠点施設整備	—
		公共施設での図書スペースの確保等	—	—	公共施設での図書スペースの確保等	—
	市民文化振興事業	文化協会等の自主運営推進	—	市民文化振興事業	文化協会等の自主運営推進	—
		サークル活動支援	—	—	サークル活動支援	—
	市民スポーツ振興事業	体育協会等の自主運営化推進	—	市民スポーツ振興事業	体育協会等の自主運営化推進	—
		サークル活動支援	—	—	サークル活動支援	—
	体育・文化施設整備事業	公民館、総合体育館等の整備	—	体育・文化施設整備事業	公民館、総合体育館、グラウンド（生津、大月）等の整備	—
	総合型地域スポーツクラブ設立推進事業	総合型地域スポーツクラブ設立の推進	—	総合型地域スポーツクラブ設立推進事業	総合型地域スポーツクラブの活動支援	—
	地域コミュニティ推進事業	校区活動事業への補助金の交付等自主運営の推進及び支援	—	地域コミュニティ推進事業	校区活動事業への補助金の交付等自主運営の推進及び支援	—
	総合的な高齢者対策事業（再掲）	生きがいつくり事業	—	総合的な高齢者対策事業（再掲）	生きがいつくり事業	—
			—	子どもの読書活動推進事業	子どもの読書活動推進に向けた、機会の充実、環境の整備、広報・啓発の充実、推進体制の確立	新
	第3節 文化の息づくまちづくり					
	文化財保護事業	文化財保護活動の推進	—	文化財保護事業	文化財保護活動の推進	—
		祭り、イベントの支援	—	—	祭り、イベントの支援	—
			—	—	中山道歴史環境整備	新
	市民文化振興事業（再掲）	文化協会等の自主運営推進	—	市民文化振興事業（再掲）	文化協会等の自主運営推進	—
		サークル活動支援	—	—	サークル活動支援	—
	第4節 輝く人づくり					
	魅力ある学校づくり事業	国際理解教育の推進	—	国際交流推進事業	子どもを主体とした文化交流事業、日本語支援団体の育成	新
			—	国際理解教育の推進	国際理解教育の推進	—
			—	人権教育啓発事業	人権教育の推進	新
	男女共同参画推進事業	男女共同参画プラン策定	—	男女共同参画推進事業	男女共同参画プラン策定	—
	第5章 活気あふれるまちづくり					
	第1節 農業					
	第2節 商工業					
	第3節 雇用・就業支援					
	第4節 観光・交流産業					
	観光資源PR事業	地域資源のPR活動推進	—	観光資源PR事業	地域資源のPR活動推進	—
	第6章 市民が主体のまちづくり					
	第1節 健全な行財政運営					
	第2節 協働のまちづくり					
	第3節 情報化の推進					
	情報通信ネットワーク事業	岐阜情報スーパーハイウェイの活用	—	情報通信ネットワーク事業	岐阜情報スーパーハイウェイの活用	